

ざみをながくはりばかまよりはひきいづべし、四人のるともこの定なり、もしかぎみのおもてに、ふたへおり物もあり、又ふりうもあることあらば、おもあはせにせで、うらあはせにたゝみて、いただきます、まへよりはかまふたつ、かぎみのまへよつさがりたるに、四人のりはまゝりもかくあるべし、二人のりはくちばかりにいづるなり、わらはのくるまには、まゝたすだれをかけぬことなり、されどもまゝたすだれをかけたる人あらばとるべからず、すだれのうらうへのはしにまさかかねで、わらはのひたひなどみゆる程にあぐべし、まゝたすだれのすそを、いたのうちにあるきよりひきいだしたるがよきなり、はかまのうへかぎみのまゝには、あこめのつますこし見ゆ、四人のりはまゝりもこの定にあぐべし、二人のりたるには、まゝりすだれはおろしたるなり、わらはの車には、さい相のくるまのなれば、下すだれはかけぬなり、もし中納言の車にて、かけてまゐらせたらんをとるまじ、かけながらあるべし、まゝつかへあじろぐるま、まゝたすだれかけず、すだれをあぐる事おなじ、はかまをわらはのやうにひきいだして、其うへにまへいたなどにかゝるほどに、きぬのつまをひきいだしたるなり、たゞひらにうちをきてあるべし、四人あらば、まゝりまへにのせてあくべし、あふぎをさすことおなじもをいだし、

〔雅亮装束抄〕なつのくるまのきぬには、うるはしくは、はりひとへがさねをも、ひとへがさねをも、ものゝぐかさねていただきます、つねのことなり、

きぬのいろをもさだめ、くるま三りやうとも五りやうともさだめられれば、あつぎぬなつもふゆもかならずいただきますべし、

御車のまゝりには、あ口口にもいただきますぬなり、まつり○賀茂のさい院のいだしぐるま、ないしのすけのいだしぐるま、あつぎぬをいだせども、からぎぬうはぎもはすゞしなり、あふぎはまつりの日はふゆのをいだし、かへさにはきぬはおなじことなれども、あふぎばかりはもちかへて、夏のあ